

「子育てひろば研修セミナー」(熊本開催)

一緒に子育てするばい熊本で — 出会い つながり 育ちあい —

- 会場 くまもと県民交流館パレア
熊本県熊本市手取本町 8-9(テトリストくまもと内)
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福) 全国社会福祉協議会・熊本県・熊本市
- 協力 子育てひろば研修セミナー〈熊本開催〉実行委員会・NPO 法人子育て談話室

【プログラム趣旨】

熊本県では平成 19 年度、地域子育て支援拠点事業「ひろば型」が県内に 21 か所・子育て支援センターが 86 か所、開設・運営されています。そこで、本セミナーでは県内の地域子育て支援拠点のつながりと今後目指すべきあり方を考え、地域子育て支援拠点がお互いに連携しながら、それぞれの役割を生かしたネットワークつくりを目指すと共に、さらにひろばの意義と役割、ひろばスタッフのスキルアップ、地域との交流、ひろばのマネジメントについて分科会を通して学びあうことを目的としました。

【開会】

主催者挨拶

財団法人こども未来財団

横山 和紀さん

来賓挨拶

熊本県少子化対策課

課長 吉田 勝也さん

開催地実行委員長挨拶

NPO 法人子育て談話室

理事長 柴田 恒美さん



司会

熊本夢もやい館 村上亜子さん

参加者数 240 名

男性 18 名 女性 222 名

行政 63 名

NPO・任意団体 57 名

その他の団体/企業 94 名

その他 26 名



【プログラム】10:00~16:30

全体のテーマ『一緒に子育てするばい、熊本で！－出会い つながり 育ちあい－』

《プログラム1》 10:15~10:45

■ 基調報告

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省少子化対策企画室 室長補佐 河村 のり子さん

はじめに日本の少子化の現状や諸外国の合計特殊出生率の推移について説明がありました。

安心して出産し、仕事と子育てが両立できる、又は育児に専念できる社会の実現へ向けて各種データをもとに、わかりやすくお話をありました。

更に、平成19年度より再編された地域子育て支援拠点事業については、その必要性、展望等を具体的に説明していただきました。

参加者からはもっと時間をかけて説明を聞いたかったとの声がたくさん寄せられました。



《プログラム2》 10:45~12:15

■ 対談

テーマ「日常を大切にする、地域の子育て支援拠点とは」 コーディネーター

熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科

教授 宮里 六郎さん

対談者

NPO法人びーのびーの 理事長 奥山 千鶴子さん

植木町地域子育て支援センター

センター長 村上千幸さん



まず自己紹介として、村上さんが、センターでの日常を大切した日ごろの活動を中心に発表され、次に奥山さんから、びーのびーの活動の発表がありました。

その後「日常の生活を大切にするひろば」について対談は進み、子育ての日常を大切にするという意味では、都会だから地方だからという点では支援の違いは見出されない、ひろばでの日常が地域につながっていくということが確認されました。また、それぞれの特性を生かした地域子育て支援拠点事業についても意見交換があり、最後は、対談で出た内容を午後の分科会へとつないで終了しました。

《プログラム3》 分科会 1:15～15:15



■ 分科会1

テーマ ひろばの役割「してあげる支援からの脱却」
～子育て家庭とともにある支援ノンプログラムの意味を考える～
講師

NPO 法人びーのびーの 理事長 奥山 千鶴子さん

コーディネーター

(有)鳳凰

代表取締役 萬野 保子さん



グループワークを中心に分科会は進みました。自己紹介のあとは、自分のひろばの問題や課題などを中心に、話は尽きませんでした。ノンプログラムの進め方について、また、支援センターの利用者が2000人超えないと補助金がカットされるので人集めをするにはどうしてもプログラム（イベント型）になってしまい、ボランティアの確保についてどのようにされているか、などの質問や課題も出されました。また、ボランティアについての失敗や成功談も発表されました。

奥山さんからは、ボランティア募集についての話題提供のほか、ノンプログラムについては、「イベントだけに来る人と、何もないときに来る人など調べてみるとよい、ひろばに来られない人に来てもらいたいと思っているならば、もう一度スタッフで対応を見直す、自分たちが努力する、やりたいことは何か、どんな人に来てほしいのかをもう一度考えてみるとよいのではないか」などたくさんのヒントが出されました。

また、参加者から「ひろばで携帯を使う母親」について質問がありましたが、参加していた大学生から「集団の中で携帯を触るときは寂しいとき」と自分の体験を重ねた意見も出され、ひろばスタッフの質の向上についても話が及びました。さまざまなディスカッションを通して、多くの気づきを持てた分科会となりました。



■ 分科会2

テーマ ひろばのスキルアップ ~支援するってどんなんこと~

コーディネーター 浜松学院大学子どもコミュニケーション学科 専任講師 高山 静子さん

パネリスト 柳川市つどいの広場「このゆびとまれ」 アドバイザー 森 郁子さん

パネリスト 天草市つどいの広場「とことこ」 子育てアドバイザー 澤田 福美さん



澤田さん、森さんより、つどいの広場の活動を中心にそれぞれ発表がありました。後半は、高山さんによるグループワーク。下記の2点について、各自、箇条書きで書いてもらいました。

テーマ①自分のひろば・センターの目的

②そのために行っていること

その後、初めての人同士で6人程度のグループになり、テーマについての情報交換です。

次に高山さんよりまとめ。

1. 目的は妥当か 2. 目的と整合性がとれた方法を行っているか 3. 目的は達成できているか（評価）など、私たちスタッフの学習がなされているかを振り返り、地域子育て支援拠点事業の目的についてもう一度考え、支援とはどういうことなのかを考える場となりました。

最後は、厚労省の河村さんからコメントをいただき終了しました。

■ 分科会3

テーマ 地域の多様な子育て支援を考える ~地域をつなぐ、地域につなぐ子育て支援~

コーディネーター 熊本県少子化対策課 課長補佐 小田 勝範さん

パネリスト ハ代市鏡子育て支援センター 地域コーディネーター 宇佐美 純代さん

パネリスト やまがファミリーサポートセンター アドバイザー 山田 慶さん

パネリスト NPO 法人こそだてサポーターあぽり 理事長 堀 泉さん



パネリスト3名の方より日頃の活動について発表していただきました。事業を個々にすすめるよりもネットワークを作ったほうが、地域がつながり、支援が充実するといった意見が出されました。

この3名のパネリストが同じ町で事業をしていたら、とても上手にネットワークが作られ、うまく子育て支援が動き出すのではないかと思えるような発表でした。

最後は、地域での子育て支援について、地域で安心して子育てするには何をしたらよいのかなどを各パネリストよりまとめていただきました。

■ 分科会4

テーマ ひろばのマネジメント～スタッフを育てる～

ファシリテーター NPO 法人北九州子育ち・親育ちエンパワーメントセンター

ファシリテーター

宗像市女性連絡協議会

理事 古野 陽一さん

会長 藤原 浩美さん



ファシリテーターの自己紹介後、ワークショップ型で進められました。参加者各自が、A4用紙を4等分にして①チャームポイント②ひろばとの関係③名前（ひらがな）を記入し、5分ほど、用紙を持って全員が立ち、お互い、いろいろな人と挨拶をしました。

次に、「ひろばのマネジメント10」の質問（①スタッフ②環境③用具・備品④安全⑤イベント⑥人材養成⑦他機関連携⑧収入確保⑨事務処理⑩その他のサークル）に対して、「うまくいっている」「うーん」「問題あり」の中で挙手をしてもらいました。

さらに、「マネジメント10」のテーマでグループ分けをし、テーマごとに話し合いの場を持ちました。

グループワーク後は、最初に4等分したA4用紙の残り4等分目の空白に「今日得たもの、新たな課題」などを記入してもらい、最後に参加者より一人一言ずつ今日の感想を発表していただきました。体験型分科会で、ほとんどの参加者が、前向きな感想を出されていました。



《プログラム4》全体会

■全体会 分科会まとめ

コーディネーター ハ代市子どもプラザすぐすく
代表 澤井 美香さん

分科会1 報告 萬野 保子さん
分科会2 報告 柴田 恒美さん
分科会3 報告 小野 勝範さん
分科会4 報告 古野 陽一さん



各分科会より報告がありました。また、午前の登壇者である宮里さんや村上さん、奥山さんからも全体を通してのコメントをいただきました。多くの参加者に、自身が参加した分科会以外の内容にも強い関心を持っていただき、アンケートでは高い評価をいただきました。



予定参加人数より多くの申し込みがあり、九州各地、「ひろば型」「センター型」、その他の子育て支援事業関係者から多くのご参加をいただいたことで、幅広い学びができた研修セミナーとなりました。また、この研修セミナーを通して、他の事業やさまざまな団体とも横の連携がはかれました。

『参加者アンケートから』

- ・この研修セミナーは自主的に参加された方も多いようで、皆さんのやる気が一緒に嬉しく思いました。
- ・“出会いながら育ちあい” この言葉をしっかり心にとどめて帰ります。
- ・ひろばのスタッフとして、どのように保護者に対応したらいいか・・・ずっと課題としてスタッフで悩んでおりますのでいろいろな方の現場の声を聞く機会が持てたことに感謝します。
- ・「つどいの広場」に出会わなければ子どもと二人どうなっていただろうと思います。虐待が他人ごとではないと感じます。つどいの広場に助けられ感謝しています。助けられた自分をこれから私のような思いをしている人たちのために活かしていければと思いました。

